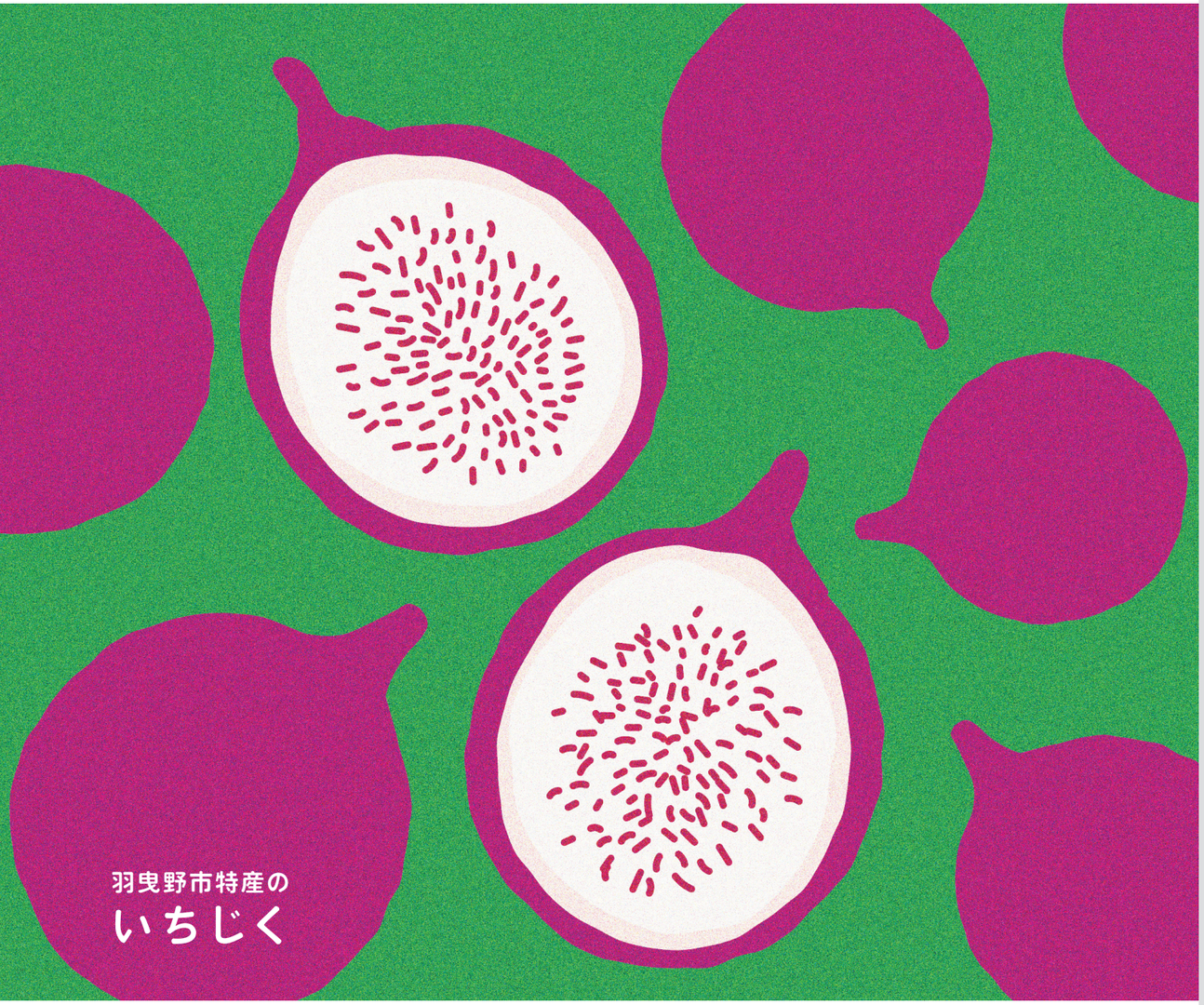
患者さんの健康をサポートする情報誌

はびきのNEXT

第273号
2026年11月



地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪はびきの医療センター

〒583-8588 大阪府羽曳野市はびきの3-7-1
072-957-2121（代表）

NEW 「治療と仕事の両立支援センター」の新しい動画をアップしました。

患者さんの健康をサポートする情報誌「はびきのNEXT」第273号　2026年11月発行

1 はびきの医療コラム　画像診断科・放射線治療科

放射線治療科の仕事

放射線治療は、手術、薬物療法（抗がん剤）と並んでがん治療の3本柱とされています。

体外からX線を照射する一般的な放射線治療は全国に約840施設あるリニアックという治療装置がある病院で受けることができ、当センターでは1985年から行っています。

放射線治療を行う場合、それぞれの患者さんに対して最適な治療方法を、関係する各科のスタッフがカンファレンスという検討会で相談したり、主治医と放射線治療科の医師が相談した上で患者さんの診察や治療の準備を行います。治療開始後も副作用や治療経過を確認して必要に応じて対応しています。

現在、当センターでは近隣の病院やクリニックの先生方とも随時相談を行える体制を整えて迅速に対応できる準備をすすめています。


呼吸器内科、肺腫瘍内科、呼吸器外科、画像診断科、病理診断科とのカンファレンスの様子


電話と電子カルテを用いて相談する様子

画像診断科・放射線治療科詳細はこちら



放射線治療科主任部長　板垣　康

2 はびきの医療コラム　栄養管理室

「食欲の秋」で増えた体重、そのままにしていませんか？

体重の増加が続き肥満になると、糖尿病、高血圧、脂質異常症、慢性腎臓病、心臓病、脳卒中、脂肪肝など、さまざまな病気のリスクが高まります。秋の味覚を楽しみながら、体重の変化にも目を向けてみましょう。

「食欲の秋」セルフチェック

- □ 新米がおいしくて、ついごはんが進む
- □ 栗・さつまいも・かぼちゃなど、秋の味覚が楽しみ
- □ 「食後のデザートは別腹！」と思う
- □ 秋限定のお菓子やスイーツを見つけると買ってしまう
- □ 夏に減った食欲が戻り、食べる量が増えた
- □ 秋の行楽や秋祭りなどでお酒を飲む機会が増える
- □ 「食欲の秋だから」と、多少の食べ過ぎは気にしない
- □ 最近、体重計に乗っていない
- □ 去年の秋より体重が増えている

気になる項目があれば、この機会に食事や生活を振り返ってみましょう。

11月14日（土）は「世界糖尿病デー」です。当日、当センターでは糖尿病や食事、運動、フットケアについて、楽しく学べる糖尿病啓発イベントを開催します。

糖尿病について知りたい方はもちろん、ご家族の健康が気になる方も、ぜひお気軽にご参加ください。詳しくは、当センターホームページをご覧ください。この機会に、ご自身やご家族の「これからの健康」について、一緒に考えてみませんか？

1 はびきのトピックス

中島義和医師が赴任し、脳神経外科を開設しました。

2026年9月より、脳神経外科主任部長として、中島義和（なかじまよしかず）医師が赴任しました。

これまで中島先生は脳血管障害や脳腫瘍、頭部外傷など、幅広い脳神経外科疾患の診断・治療や手術に携わってきた経験豊かな先生です。患者さん一人ひとりの状態に応じた診療を行います。

脳神経外科領域の疾患について、治療の必要性や治療方法についてのご相談にも対応し、地域の皆さまが安心して受診できる診療科を目指します。また、地域の診療所や医療機関との連携を大切にし、必要に応じて専門的な治療を行う医療機関とも連携しながら、地域の脳神経外科診療に貢献してまいります。



センター入口モニュメント前

脳神経外科の詳細はこちら



脳神経外科主任部長　**中島 義和**

2 はびきのトピックス

川島副院長が救急医療功労者として厚生労働大臣表彰されました。



9月9日、川島副院長が令和８年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受け、厚生労働省で行われた表彰式に出席しました。

川島副院長は、大阪における耳鼻咽喉科救急医療体制の責任者として、長年にわたり救急医療の充実に取り組んできました。

大阪では、大阪市中央急病診療所で365日、耳鼻咽喉科の救急診療を実施しています。これは、大阪府耳鼻咽喉科医会に所属する医師をはじめ、多くの医療機関や行政などの連携によって支えられている、全国に誇れる救急医療体制です。

今回の受賞について、川島副院長は、「この表彰は私個人ではなく、大阪の耳鼻咽喉科救急医療に対していただいた名誉です。これまで支えてくださった関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます」と述べています。

大阪はびきの医療センターでは、地域の急性期医療を担う病院として、救急医療に力を入れています。

これからも、地域の皆さまが安心して医療を受けられるよう、救急医療体制のさらなる充実に努めてまいります。

3 はびきのトピックス

インフルエンザ流行期に備えて感染対策とワクチンのポイント



今年はインフルエンザの流行が例年より早く始まっています。2026年は8月下旬の時点で全国の定点当たり報告数が流行の目安を超え、1999年以降では2009年に次いで2番目に早い流行入りとなりました。

インフルエンザは、発熱、咳、のどの痛み、全身のだるさなどを起こし、特に高齢の方や基礎疾患のある方では、肺炎などを合併して重症化することがあります。

予防の基本は、日頃からの感染対策です。こまめな手洗いや手指衛生、咳やくしゃみをするときの咳エチケット、室内の適切な換気を心がけましょう。人が多く集まる場所や医療・福祉施設などでは、状況に応じたマスクの着用も有効です。国立健康危機管理研究機構（JIHS）も、インフルエンザを含む呼吸器感染症対策として、これらの対策を推奨しています。

ワクチン接種も重要な予防手段の一つです。インフルエンザワクチンは、感染を完全に防ぐものではありませんが、発症や重症化を防ぐ効果が期待されています。特に、高齢の方や心臓・肺・腎臓などに基礎疾患のある方、免疫機能が低下している方などは、接種について主治医と相談してみましょう。日本では65歳以上の方などが定期接種の対象となっています。

お子さんには、従来の注射によるインフルエンザワクチンに加えて、鼻に噴霧するタイプのワクチンもあります。国内では2歳以上19歳未満が対象で、1シーズン1回の接種です。注射が苦手なお子さんにとって選択肢の一つとなりますが、年齢や喘息などの持病、体調によって適さない場合もありますので、接種する医療機関でご相談ください。

流行が始まってからでも、ワクチン接種を検討する意義はあります。基本的な感染対策を続けながら、それぞれの年齢や健康状態に応じた予防を心がけ、インフルエンザの流行期を乗り切りましょう。

4 はびきのトピックス

はびきの糖尿病デー 2026 市民向け講座・健康啓発イベントを開催します。





11月14日の「世界糖尿病デー」にあわせ、当センターでは地域の皆さまを対象とした市民向け講座・健康啓発イベントを開催します。

当日は、医師による糖尿病の講義、看護師によるフットケアのお話、理学療法士による運動の講義を行います。またフットケアとSATシステム（食品サンプルを用いた食育体験）を体験していただき、足の健康や毎日の食生活について楽しく学んでいただきます。

また、健康相談コーナーや、糖尿病に関するパンフレットや医療機器の展示も予定しています。

多職種が協力し、糖尿病を「知る」だけでなく、日々の生活や健康を振り返るきっかけとなるイベントを目指しています。

- ●開催日時：2026年11月14日（土） 14:00～16:00
- ●会　　場：当センター3階　講堂
- ●参加申込：Googleフォームによる事前申込制
- ●定　　員：30名

申込QR